

総務文教常任委員会審査概要報告書

委員長 酒井 善広

- I 開催年月日 令和 2 年 10 月 16 日（金）
II 会議時間 午後 1 時 00 分～午後 1 時 25 分
III 出席委員等〔出席委員〕◎酒井 善広 ○横田 誠二 高瀬 充子
本田 利麻 中村 清志 上田 武
曾田 康司 中川 加津代 畠 起也
（◎…委員長 ○…副委員長）
〔説明員〕 別紙名簿のとおり
〔委員外議員〕 なし
〔事務局職員〕 西本 幸夫 松本 武司 関本 尚彦
〔傍聴者〕 なし

IV 審査の概要

1 報告事項について

〈 当局から、次のとおり報告・説明があった。 〉

〔市長政策部〕

。高岡市総合計画第 4 次基本計画策定に向けた市民アンケート調査の実施について

〈 委員から、質疑等はなかった。 〉

2 その他

。次回の常任委員会の開催について

11 月 18 日（水）午前 10 時に開催することが報告された。

〈 委員から、次の質疑等があった。 〉

（ 以下、質疑・質問内容は ○ 、答弁内容は △ で表示 ）

【万葉線の車両故障について】

○ 令和 2 年 10 月 3 日午後に発生した万葉線の車両故障の原因は。また、再発防止について万葉線株式会社に要請すべきでは。

△ 午後1時頃に旧型車両が新吉久電停付近において、車両トラブルにより停止し、約4時間後に通常再開したものである。運行停止の間は、米島口から新吉久間でバスの代替輸送を行い対応した。モーターの回転軸を抑えるワッシャーが破損し、モーターの回転軸が回らなくなったことが原因との報告を受けている。万葉線においては、定期的な車両の法定検査に加えて、3日に1回の列車点検、45日に1回の集電装置等の点検といった日常的な検査も実施していると聞いている。再発防止に向け、ワッシャーなどの細部の部品についても、入念に検査するよう要請したところである。

【交通弱者の移動手段確保について】

- 地域バスや地域タクシーの導入がなかなか進まない状況にある中、交通弱者の移動手段を確保するため早急に対応策を検討すべきでは。
- △ 市民協働型の地域交通システムの導入については、これまで、出前講座や地域の会合、また市の広報紙等を通じて制度を紹介し、導入に向けた相談も地域から承っている。しかし、70歳代以上の団塊世代の車保有率は依然として高く、勤務先や買い物に行く際に車を利用されている方も多い。このため、車を手放すことには不安があり、地域バス、地域タクシーには理解を示しつつも、その必要性までは、まだまだ実感出来ていない状況があると考えている。引き続き、地域と協議しながら、導入に向けて努力していきたい。併せて、既存公共交通の維持のため、運行支援をはじめ、コロナ対策の紹介、バス、万葉線等の割引切符や復路の無料券の配布など、地域の皆様に気軽に乗車いただけるような利用促進策を展開していきたい。
- 高岡駅前から高岡市ふれあい福祉センターへ行くバスの運行を要望する声もある。高齢者や障がい者の方など、いわゆる交通弱者の方から、いろいろな声があると思うが、地域バス、地域タクシーは、導入が進まない。交通弱者の方の移動手段確保については、市長政策部のみならず、福祉保健部や産業振興部とも連携し、早急に対応いただきたい。（要望）

【指定緊急避難場所について】

- 公立施設及び民間施設の各想定収容人数の合計は。
- △ 洪水時の指定緊急避難場所の収容人数の合計は、公立施設で約11万人、民間施設で約3万1千人である。なお、コロナ禍におけるソーシャルディスタンスを想定すると収容人数は通常の4割から6割程度になると考えている。
- 公立施設だけでは限界があることから、新たな民間施設の指定に向け努力をお願いしたい。（要望）
- △ 災害から命を守るため、想定収容人数に達したとしてもパーティション等を活用してより多くの避難者の受け入れを行っていくが、余裕がある避難所の確保は、当然求められており、民間施設の指定についても打診を行っているところである。一方で、全員が指定緊急避難場所に避難することは難しいことから、可能な方については、浸水しない自宅上層階への避難や安全な知人、友人宅への避難をお願いするとともに、車での避難についても検討したい。市民が安全に避難できる方策を今後も検討していく。

【住民の幸福実感向上を目指す基礎自治体連合（通称 幸せリーグ）について】

○ 参加目的、経緯及び参加時期は。

△ 幸せリーグは、住民の幸福を政策の基本に据えた取り組みをしている全国の基礎自治体が参加し、お互いに学び合うことを目的として平成 25 年 6 月に荒川区長などが中心となり設立されたものである。設立当時の研究テーマには、定住促進や特産品を活用したまちおこしなどがあり、全国の自治体から様々な情報を得て、本市の課題解決にもつながるのではないかと思います、参加することとしたものである。なお、参加した経緯としては、「あらかわの伝統技術展」において、越中福岡の菅笠を展示し、荒川区との交流があったことから、幸せリーグの会長でもある荒川区長から本市に参加のお誘いがあり、平成 27 年 8 月から参加している。

○ 会議等の参加に伴い本市が負担する経費は。

△ 平成 29 年度の負担額は、会費として一自治体当たり年間 15,000 円だったが参加自治体が増えてきたこともあり、30 年度からは、10,000 円に減額となっている。令和 2 年度は、コロナウィルスの関係で活動ができないことから、会費の支払いはない。

○ 総会や実務者会議等の参加経費は。

△ 市長が出席する総会は、例年 6 月に開催される全国市長会の集まりにあわせて開催されており、追加の出張旅費等の経費は発生していない。また、担当者が参加する実務者会議においては、出張旅費が発生するが、本市が抱える課題のテーマではない場合については、参加しない年度もある。

○ 幸せリーグにおいて、学ぶべきことは多いと思うので、ぜひ、先進事例を本市施策に活かし、市民の幸せを高めていってほしいが、見解は。

△ 幸せリーグの構成団体は基礎自治体であり、抱えている課題も似通っている。資料等は全ていただいております、参考になるものは、本市施策の参考にしている。今後も機会を捉え、本市の施策推進に何らかの形で寄与できるよう心がけたい。

○ 参加による成果は。

△ ふるさと納税のテーマでは、全国の方に知ってもらうための情報発信やまちの応援者をつくるという視点も重要であるといった意見交換がなされている。これらを参考に、本市では、令和元年度からふるさと納税ポータルサイトの活用や、プロジェクト型で実施した「ありがとう給食の日」などの施策につなげていったところである。また、地域おこし協力隊のテーマでは、協力隊が地域に根付いて成果を上げるためには隊員同士はもちろんのこと、自治体職員間の情報交換や連携も重要であるといった議論があった。こちらについても、呉西圏域での連携事業である地域おこし協力隊ネットワーク形成事業において、活動の情報共有をしており、本市においても、今年度からの協力隊員の委嘱につながったものと考えている。各種政策を進める上での気づきや施策立案のヒントを得る場として、幸せリーグを活用しているが、このほかにもいろいろな場があるので、アンテナを高くして情報収集していきたい。

〈 当局から、報告はなかった。 〉

〈 以上で委員会を閉じた。 〉

総務文教常任委員会 当局説明員（7名）

市長政策部長	鶴 谷 俊 幸		
市長政策部次長 都市経営課長・広域連携推進室長	久 郷 聡		
総合交通課長	今 方 順 哉		
総務部長 選挙管理委員会事務局長	二 塚 英 克		
総務部次長	戸 田 龍 太 郎		
総務部次長・参事 財政課長	長 久 洋 樹		
総務課 危機管理室長	割 田 一 郎		